

令和8年度 昭島市立多摩辺中学校 数学科 第1学年 年間指導計画及び評価規準

単元名	月	時数	ねらい(目標)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ 1節 整数の性質	4	3	○九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。 ○素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	○自然数をいくつかの数の積で表すと、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかがわかることを理解している。	○九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。	○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
1章 正負の数 1節 正負の数 2節 加法と減法 3節 乗法と除法 4節 正負の数の利用	5 6	27	○正負の数を数直線上に表すことができる ○数の大小関係を不等号を使って表すことができる。 ○正負の数の四則の混じった計算ができる。 ○数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	○正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結び付けて理解している。 ○数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 ○正負の数の四則の混じった式の計算順序を理解し、計算ができる。	○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。 ○除法を乗法の逆算とみて、正負の数の除法の計算方法を考え、説明することができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数の大小関係を考えようとしている。 ○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
2章 文字と式 1節 文字を使った式 2節 文字式の計算 3節 文字式の利用	7	20	○文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 ○1次式のいろいろな計算ができる。	○具体的な数量を文字を使った式で表すことができる。 ○文字式の表し方のきまりを理解し、それにしたがって式を表すことができる。 ○数量の間の関係を等式や不等式で表すことができる。	○具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考察することができる。 ○具体的な場面と関連づけて、1次式の計算方法を考え、説明することができる。	○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ○等式と不等式の必要性和意味を考えようとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3章 方程式 1節 方程式とその解き方 2節 1次方程式の利用	9	16	○方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。 ○具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	○等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解くことができる。 ○方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考え、式や図を使って説明することができる。 ○求めた解が問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。	○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。 ○方程式を活用した問題解決の過程を振り返ってその手順を検討しようとしている。
4章 比例と反比例 1節 関数と比例・反比例 2節 比例の性質と調べ方 3節 反比例の性質と調べ方 4節 比例と反比例の利用	10 11	24	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 ○身のまわりの問題で、関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして解決することができる。	○2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。 ○比例や反比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○比例や反比例のグラフの特徴を見だし、説明することができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。	○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ○比例や反比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
5章 平面図形 1節 図形の移動 2節 基本の作図 3節 おうぎ形	12 1	18	○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○身のまわりにあるものを円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。	○平行移動の意味とその性質を理解し、ある図形を平行移動させた図形をかくことができる。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することをもとにして、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。 ○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する方法を考え、説明することができる。	○図形の移動について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
6章 空間図形 1節 いろいろな立体 2節 立体の見方と調べ方 3節 立体の体積と表面積	1 2	19	○身のまわりにあるものから立体を見だし、それらの立体をいろいろな見方で分類することができる。 ○空間図形を平面上に見取図や展開図を用いて表現することができるようにする。 ○おうぎ形の弧の長さや面積や基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることができるようにする。	○角錐、円錐の意味とそれらの特徴を理解している。 ○空間内にある平面と直線、平面と平面、直線と直線の位置関係を理解している。 ○角錐や円錐の展開図とその特徴を理解している。	○立体をいろいろな見方で分類し、立体のどこに着目して分類したかを説明することができる。 ○立体を展開図に表して、面の実際の形や長さの関係を捉えることができる。 ○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考え、説明することができる。	○空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ○空間図形を平面上に表現して、平面上の表現から空間図形の性質を見いだそうとしている。 ○立体図形の体積や表面積の求め方を考えようとしている。
7章 データの分析と活用 1節 データの整理と分析 2節 データの活用 3節 ことがらの起こりやすさ	3	12	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解し、それらを用いてデータを整理することができる。 ○代表値や範囲の必要性和意味を理解し、それらを求めることができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数などについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。
合計	140		評価方法	定期考査 単元テスト 単元および定期考査における学習の振り返り ワークブックの復習 レポートの記述 等		

(観点別学習状況について) 観点ごとに達成度を計算し、A…80%以上 B…50%以上 C…20%以上で算出する。(評定への総括方法) 各観点の達成度を総括(%)し、5…90%以上 4…80%以上 3…50%以上 2…20%以上 1…20%未満として算出する。

令和8年度 昭島市立多摩辺中学校 数学科 第2学年 年間指導計画及び評価規準

単元名	月	時数	ねらい(目標)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 式の計算 1節 式の計算 2節 文字式の利用	4	17	○具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ○多項式についてのいろいろな計算ができる。 ○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	○文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 ○多項式についてのいろいろな計算ができる。 ○式の値をくふうして求めることができる。 ○等式を変形して、ある文字について解くことができる。	○身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、説明することができる。 ○既習の計算方法と関連付けて、文字をふくむ計算を考え、説明することができる。 ○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。 ○既習の計算方法と関連付けて、多項式の計算方法を考えようとしている。 ○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
2章 連立方程式 1節 連立方程式とその解き方 2節 連立方程式の利用	5 6	14	○2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。 ○加減法や代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。 ○具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	○簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。 ○加減法と代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。 ○具体的な問題の中の数量やその関係に着目し、連立方程式をつくることができる。	○連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 ○連立方程式の解き方を振り返って、加減法と代入法を統合的に捉えることができる。	○連立2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考えようとしている。 ○連立2元1方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。
3章 1次関数 1節 1次関数 2節 1次関数の性質とその調べ方 3節 2元1次方程式と1次関数 4節 1次関数の利用	7 9	20	○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。 ○1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 ○2元1次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。	○事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ○1次関数 $y=ax+b$ で、 x の増加量から y の増加量を求めることができる。 ○グラフの傾きや通る点の座標などから、1次関数の式を求めることができる。 ○1次関数の関係を、変域ごとに式やグラフで表すことができる。	○1次関数の関係を、変域ごとに式やグラフで表すことができる。 ○1次関数の値の変化の特徴を見だし、説明することができる。 ○1次関数の表、式、グラフを、相互に関連付けて考え、説明することができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、変域によって場合分けをして考え、説明することができる。	○1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○比例のグラフと対比させて、1次関数のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
4章 平行と合同 1節 説明のしくみ 2節 平行線と角 3節 合同な図形	10 11	17	○多角形の内角の和の求め方を説明することができる。 ○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。 ○根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。	○多角形の内角の和、外角の和の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○三角形の合同条件を利用して、2つの三角形が合同かどうかを判断することができる。 ○証明の必要性和意味及びその方法について理解している。	○基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認、説明することができる。 ○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。	○平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考えようとしている。
5章 三角形と四角形 1節 三角形 2節 平行四辺形	12 1	22	○二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。 ○ことがらの逆と反例の意味を理解する。 ○平行四辺形の性質を証明することができる。また、これを利用して、図形の性質を証明することができる。 ○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解する。	○定義やことがらの仮定と結論、逆の意味を理解している。 ○二等辺三角形の定義と性質を理解している。 ○平行四辺形の定義と性質を理解している。 ○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解している。	○三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ○三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ○ことがらが正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。	○証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。 ○平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
6章 確率 1節 確率 2節 確率による説明	2	9	○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味及び確率の求め方を理解する。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ○簡単な場合について確率を求めることができる。	○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ○確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。	○場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
7章 データの比較 1節 四分位範囲と箱ひげ図	3	6	○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。また、箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。	○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
合計	105		評価方法	定期考査 単元テスト 単元および定期考査における学習の振り返り	ワークブックの復習 レポートの記述 等	

(観点別学習状況について) 観点ごとに達成度を計算し、A…80%以上 B…50%以上 C…20%以上で算出する。(評定への総括方法) 各観点の達成度を総括(%)し、5…90%以上 4…80%以上 3…50%以上 2…20%以上 1…20%未満として算出する。

令和8年度 昭島市立多摩辺中学校 数学科 第3学年 年間指導計画及び評価規準

単元名	月	時数	ねらい(目標)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 多項式 1節 多項式の計算 2節 因数分解 3節 式の計算の利用	4	19	○具体的な問題を、文字式とその計算を利用して解決することを通して、文字のよさを理解する。 ○乗法公式を利用して、いろいろな式をくふうして展開できる。 ○因数分解の公式を利用して、いろいろな式をくふうして因数分解できる。	○単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ○簡単な1次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。	○既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現することができる。 ○文字を用いた式を活用して数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	○式の展開や因数分解をすることの必要性や意味を考えようとしている。 ○式の展開や因数分解について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○式の展開や因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
2章 平方根 1節 平方根 2節 根号をふくむ式の計算 3節 平方根の利用	5	16	○2乗して2になる数は、かぎりなく続く小数であり、根号を使って表すことを理解する。 ○根号をふくむ式の乗法や除法の計算方法を理解する。 ○平方根を具体的な場面で活用することができる。	○数の平方根の必要性和意味を理解している。 ○平方根をふくむ式の計算をすることができる。 ○具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。	○これまでに学んだ文字式の計算などと関連付けて、数の平方根をふくむ式の計算の方法を考察し表現することができる。 ○平方根を具体的な場面で活用することができる。	○数の平方根の必要性和意味を考えようとしている。 ○数の平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3章 2次方程式 1節 2次方程式とその解き方 2節 2次方程式の利用	6 7	15	○2次方程式とその解の意味を理解する。 ○いろいろな2次方程式を、適当な方法で解くことができる。 ○具体的な問題を、2次方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	○2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ○平方の形に変形したり、因数分解したりすることで2次方程式を解くことができる。 ○解の公式の意味を理解し、それを用いて2次方程式を解くことができる。 ○事象の中の数量やその関係に着目し、2次方程式をつくることができる。	○平方根や因数分解の考えをもとにして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ○具体的な問題の解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる。	○2次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○2次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○2次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数 $y=ax^2$ 2節 関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方 3節 いろいろな関数の利用	9	17	○関数 $y=ax^2$ の意味を理解し、 $y=ax^2$ の式に表すことができる。 ○関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を理解する。 ○関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を理解する。 ○いろいろな事象の中から関数関係を見だし、その変化や対応の特徴を捉え、説明することができる。	○関数 $y=ax^2$ について理解している。 ○事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 ○関数 $y=ax^2$ を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 ○いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。	○関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ○関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	○関数 $y=ax^2$ の必要性和意味を考えようとしている。 ○関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
5章 相似な図形 1節 相似な図形 2節 平行線と比 3節 相似な図形の面積と体積	10 11	23	○相似の意味と相似な図形の性質を理解する。 ○三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明することができる。 ○平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明することができる。 ○相似な立体の相似比と表面積や体積の関係を利用して、立体の表面積や体積を求めることができる。	○平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ○基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係について理解している。 ○誤差、有効数字の意味を理解し、近似値を $a \times 10^n$ の形に表現することができる。	○三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ○平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 ○相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	○図形の相似の意味や、相似な図形の相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている。 ○図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
6章 円 1節 円周角の定理 2節 円周角の定理の利用	12	10	○円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知る。 ○円周角の定理を利用して、図形の性質を見だし、証明することができる。	○円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ○円周角の定理の逆が成り立つことを知っている。	○円周角と中心角の関係を見いだすことができる。 ○円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。	○円周角と中心角の関係を見いだそうとしている。 ○円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○円周角と中心角を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
7章 三平方の定理 1節 三平方の定理 2節 三平方の定理の利用	12 1	13	○三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知る。 ○三平方の定理を利用して、いろいろな長さを求めることができる。	○三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ○三平方の定理を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 ○三平方の定理の逆が成り立つことを知っている。	○三平方の定理を見いだすことができる。 ○三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	○三平方の定理を見いだそうとしている。 ○三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
8章 標本調査 1節 標本調査	2 3	6	○身のまわりで行われている調査には全数調査と標本調査があることを知り、標本調査の必要性和意味を理解する。 ○標本調査の方法や結果を批判的に考察したり、調査の計画を立てたりすることができる。	○標本調査の必要性和意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。	○標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ○簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	○標本調査の必要性和意味を考えようとしている。 ○標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
合計	140		評価方法	定期考査 単元テスト 単元および定期考査における学習の振り返り ワークブックの復習 レポートの記述 等		

(観点別学習状況について) 観点ごとに達成度を計算し、A…80%以上 B…50%以上 C…20%以上で算出する。(評定への総括方法) 各観点の達成度を総括(%)し、5…90%以上 4…80%以上 3…50%以上 2…20%以上 1…20%未満として算出する。